

令和7年度大野市スポーツ推進審議会 議事録

●日時 令和7年10月21日(火)午後7時～7時40分

●会場 エキサイト広場総合体育施設 2階会議室

1 開会あいさつ(会長)

2 議事

(1)今年度の取り組みの紹介について

事務局から資料に基づき説明【資料P1～5】

<意見・質問等>

委員 「全国ランニング大会100撰」の選出はどのような方法で選出しているのか。今年の選考は来年になるのか。

事務局 大会に参加したランナーが、ランニングポータルサイト「ランネット」へ投稿する大会レポートをもとに選考される。今年開催の大会の選考は、来年になる。

(2)スポーツを取り巻く現状について

(3)令和8年度の課題と施策案について

まとめて事務局から資料に基づき説明【資料 P6～7】

<意見・質問等>

委員 以前からイベントなどの広報に苦慮していると伺っていたが、何か取り組みはしているのか。

事務局 市のホームページで、スポーツ推進課や公民館で実施するスポーツ教室の情報を集約し、同じページで確認することができるようにしている。

委員 市のLINEでの広報も行っているのか。ホームページまで情報を取りに行くことはなかなかしない。

事務局 行っている。必要があれば、LINEにホームページへのリンクを張っている。また、これまでどおり市広報による周知もしている。ヘルスウォーキングのアプリ内の通知を使つての情報発信もしている。

委員 申し込みは、オンラインでできるようになっているのか。

事務局 オンラインで受け付けている。ほとんどの方が、オンラインで申し込んできている。

- 委員 「中学校の休日の部活動が完全に地域クラブに移行された」とあるが、他市で休日の部活動が全面的に廃止されると聞いた。
- 事務局 学校の手を離れ、地域に移行するということだと思う。
- 委員 地域移行の後、課題は出てきているか。
- 事務局 当然課題は出てくると思う。教育委員会と連携してこまめに情報を共有している。持ち上がった課題については、できることから対応していく。
- 委員 大野市は、令和6年度から部活動を地域に移行している。福井市も来年度から移行する予定。県内ほとんどの市町が同様の動き。スピードはさまざまであるが、全国的な動きである。大野市は、県内で一番早かった。
- 委員 大野市が早く進んだのは、指導者がしっかり確保されたからか。
- 委員 学校再編が一つのきっかけでもあったが、教育委員会にコーディネーターが配置され、クラブ活動に積極的に働きかけて環境を整えていただいた。
- 委員 大会などへの出場は、学校単位ではなくなるということか。
- 委員 中体連の大会へは、学校部活動以外に、クラブチームも中体連へ申請して条件を整えば、参加が可能である。

(4)スポーツ推進計画の目標数値達成状況(R6 年度末)について

事務局から資料に基づき説明【資料 P8】

<意見・質問等>

- 委員 スポーツ推進計画の目標値は、市の総合計画にもあがっているのか。
- 事務局 「市民 1 人当たりの体育施設利用回数」と「スポーツ指導者公認資格の新規取得者数」が総合計画の成果指標となっている。
- 委員 総合計画の後期基本計画は、何年度までの指標となるのか。スポーツ推進計画は、令和14年度までの目標値となっているが。
- 事務局 現在策定中の後期基本計画は、令和12年度が最終年度となっている。来年度、スポーツ推進計画の中間見直しを予定している。その際、後期基本計画に沿って指標を見直すことになる。
- 委員 部活動の地域移行が、「市民 1 人当たりの体育施設利用回数」や「週 1 回以上スポーツを実施している割合」などの目標数値に影響を与えるのでは。今年度に入って変化はあるか。
- 事務局 学校でのクラブ活動はするが、土日の活動まではしないという子もいると聞いている。

- 委員 どの自治体でもそういう生徒が増えていき、二極化が進むと思う。今後の指標の実績値を見ながらの対応になると思う。
- 委員 地域移行の指導に携わっているが、土日の練習への参加者は減少している。少子化の影響もあり、選手が少なく、広域でチームを作っている種目もある。これは、スポーツ少年団も同様である。指導者が確保されている種目は盛り上がる。指導者と練習場所の確保が地域移行の課題である。
- 委員 生徒のモチベーションはそれぞれ違う。クラブチームは、上を目指す人とそうでない人の差が生まれており、その差をどうするかが課題であるという話を聞く。
- 委員 学校部活動の様子を見てみると、競技としてしっかりやりたい生徒にはクラブチームへの参加を促すが、中学校からそのスポーツを始めて、平日の活動だけで十分という生徒も結構いる。友達と楽しんでスポーツをするだけで良いという生徒が増えているように感じる。学校部活動が、スポーツに関わる入り口にはなっている側面はあると思う。学校側が強制することではなく、それぞれすみ分けされていると感じている。

(5)その他について

- 事務局 次の審議会は、次年度に入ってから開催を予定している。
また、次年度中に大野市スポーツ推進計画の中間見直しを予定している。委員のご協力をお願いしたい。
- 委員 スポーツ推進計画の4つの基本目標の優先順位をつけるとするとどうなるか。
- 事務局 それぞれ重要であるが、スポーツ推進課が教育時委員会事務局から健康福祉部に移管された。スポーツを通じた健康増進には力を入れたいと考えている。
- 委員 計画策定時に携わったが、まず、すそ野を広げる必要があるだろうということで、1番の「スポーツ参画人口の拡大」をベースにする考え方をしている。大人になって、いきなりスポーツを始めるのはなかなか難しく、子どものころからスポーツに関わる環境を作る必要がある。また、トップアスリートを育てるには、すそ野を広げる必要があるというコンセプトだった。
- 委員 少子高齢化が進む中、スポーツ参画人口の拡大、健康の増進どちらも大切だと思う。このような場で、アイデアを出しあっていると良い。

3 閉会あいさつ(副会長)